

物流博物館 NEWS Vol.14

物流博物館NEWS vol.14

2017年5月1日発行

編集：物流博物館

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15

TEL 03(3280)1616 <http://www.lmuse.or.jp>

発行：公益財団法人利用運送振興会



現代の物流展示室 物流ターミナルのジオラマ模型 夕景

物流の結節点である鉄道貨物ターミナル・トラックターミナル・港・空港を見渡すことができるジオラマ。小学生、修学旅行の中学生高校生、大人にも人気のスポット。港のガントリークレーンが動いたり、コンテナ列車が走ったり、貨物専用機のノーズドアが開いたり、運ぶ現場を体感できる。

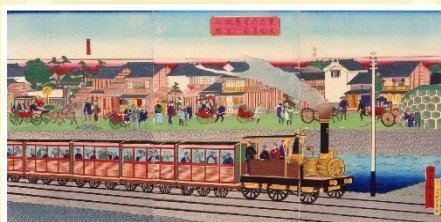
ミニ企画展を振り返って



2016年度ミニ企画展

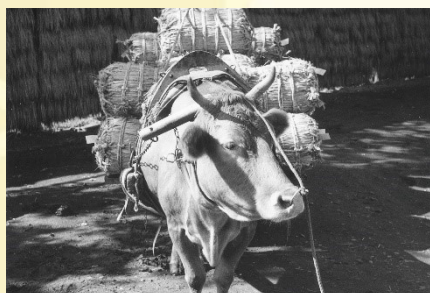
高輪牛町・牛がモノを運んでいたころ

会期：2016年10月26日～2017年1月31日



明治初期の牛町
「東京高輪真景蒸気車
鉄道之図」
歌川広重（三代）画
明治6年（1873）

右：牛車・牛屋部分拡大



米俵を運ぶ牛車
昭和33年（1958）頃
新潟県燕市吉田付近

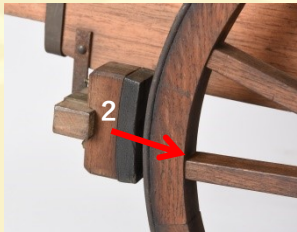
当館から歩いて20分程の場所、泉岳寺付近（港区高輪2丁目）に「牛町」と呼ばれた地域がありました。江戸の初期、寺院の建設・水路や橋梁の整備・大名屋敷の建設など城下町づくりの大工事が進められていた折、その資材運搬などのため京都から牛車（うしぐるま）を用いた運送業者が呼び寄せられ、その後彼らが居住した場所です。「牛町」は、地域に残る「物流」の歴史であることから是非当館でも紹介したいと考え、ミニ企画展としてとりあげました。

展示はパネル展として構成し、江戸時代の牛町・牛車の仕事の様子を、主に錦絵・名所図会といった絵画資料や記録史料によって紹介。あわせて、明治時代以降も各地で行われていた牛車による輸送の姿を、館蔵の写真と映像資料で展示しました。また、やがて牛がモノを運ぶ姿が消えていった様子を、荷馬車や貨物自動車数などの統計データとの比較から追いました。

展示をご覧になられた方からは「江戸で牛車を使っていたのは知らなかった」とのご感想をいただくことが多くありました。お陰様でご好評をいただき、当初の展示予定期間から1ヶ月程延長し、会期中の来館者数は2,194名を数えました。なお、今後展示内容の一部を再構成し、常設展示でもご紹介する予定です。

（企画担当芸員：三田芳美）

新収蔵資料紹介 乗車式荷馬車模型



模型は可動式で、座席の横のレバー（１）を前に倒すと、車輪に押さえの部分（２）が押し付けられ、ブレーキがかかるようになっています。



2016 年度新たに収蔵した資料から、乗車式荷馬車模型（３点）をご紹介します。

これらの模型は個人の方からご寄贈いただいたもので、製作年代は大正末～昭和初期で、その精巧さから荷馬車製造業者によって製作されたものではないかと考えられます。

日本では江戸時代までは車を曳くのは人や牛に限られていましたが、幕末・明治時代以降は馬車も使用されるようになりました。特に大正 12 年（1923）の関東大震災後の緊急物資などの輸送に、貨物自動車（当時の全国の保有台数は 3058 台）では間に合わず、全国各地から集められた荷馬車が活躍し、これを機に馬力が再評価されました。

このような中、帝国競馬協会（現・日本中央競馬会）は馬の利用方法を改善しその能率の増進を図るため、大正 14 年（1925）～昭和 3 年（1928）の間、乗車式荷馬車調査委員会を設けました。

調査の結果、乗車式の方が、徒歩式（＝馱者が先に立ち馬の口を曳く口取式）に比べて馬の本性を活かすことができ、馬の速度を利用して輸送効率を増進できるとしてその普及に力を入れ、各地で実物車両による宣伝や改造部品・改造費の補助などが行われました。ご寄贈いただいた３点のうち、一番上の写真の資料の荷台後部には「露出陳列第 4 号」と記されたプレートが付けられており、これらの模型は乗車式荷馬車の啓蒙普及活動の際に使用されたのではないかと考えられます。

いずれの模型も細部の部品まで再現された可動式の大変精巧なもので、レバーを操作するとブレーキも動きます。それまでの荷馬車にはブレーキがなく、急に止める事の多い荷馬車にとっては馬の損傷を防ぐために必要である、として帝国競馬協会ではブレーキ付きの荷馬車を推奨していました。

現時点ではこれらの模型をご覧いただくことはできませんが、いずれ展示の機会を作り皆様にご紹介する予定です。

（学芸員 三田芳美）

<主な参考資料>

石井常雄『「馬力」の運送史』（白桃書房、2001 年）、
帝国競馬協会「乗車式荷馬車の奨め」（1928 年以降）、
帝国競馬協会編「乗車式荷馬車調査委員会業務報告書」第 1 回（1929 年）、
第 2 回（1933 年）

模型サイズ

長さ（長柄を含む）×最大幅 × 最大高
上：114.8 × 37.5 × 33.4 センチメートル
中：152.0 × 36.8 × 34.5 センチメートル
下：118.9 × 30.6 × 37.8 センチメートル

◀参考資料：「乗馬式荷馬車絵葉書」

左：乗車式二輪荷馬車 右：乗車式四輪荷馬車

物流会社の制服着用体験コーナーに

新しく DHL が加わりました（寄託）

「現代の物流展示室」体験コーナーには「物流会社の制服着用体験コーナー」があります。佐川急便、日本通運、日本郵便、ヤマト運輸のドライバーの制服と JR 貨物の機関士の制服が着用できるというのですが、今回新しく DHL の制服が加わりました。昨年夏に DHL の皆さんがお子様とともにご来館されました。その際に制服着用体験が好評で、DHL の担当者の方から、制服の貸与を申し出てくださったのです。半袖・長袖のポロシャツ、防寒着、フリースの 4 種類あります。赤と黄色の制服は、小学校の社会科見学でも人気です。



平成 28 年度(2016 年度)を振り返って

1. 普及事業

A. なつやすみダンボール工作コーナー

実施日：8月13日(土)・20日(土)
参加者数：子ども83名+大人73名=
合計156名

対象：幼児～小学校6年生(小学校3年生までは保護者同伴)
概要：梱包資材である段ボールを素材とした機関車・トラック・貨物船のキットを組み立て、色を塗るなど飾りつけを行い自分だけの運ぶ乗り物を製作。

参加費：材料費100円(入館料別)

B. 学生向け体験講座「美術品の梱包・入門(陶器)編」

実施日：8月10日(水)
参加者数：27名
参加費：500円(入館料別)

C. 古文書講座「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」

実施日：5月14・28日、6月18日、
7月2日の土曜日(全4回)
参加者数：のべ101名
概要：外部から講師を招き、典型的
なくずし字の読み方や、江戸時代の古
文書のパターンに触れて、楽しみなが
ら古文書に親しんだ。今回初めての開催。
講師：学習院大学非常勤講師 田中潤先生
参加費：500円(1回毎)

D. 古文書講座「巨大城下町江戸の交通事情―旧幕府引継書「永代橋渡銭取書留」をよむ―

実施日：10月8日・22日、11月12・26日の土曜日(全4回)
参加者数：のべ112名
概要：外部から講師を招き、物流に関する歴史について、古文書の解読を行いながら解説する講座。今回は、18世紀中頃の永代橋焼失に伴って行われた渡船に関する史料を読みながら、隅田川河口域の地域の様相についても紹介した。
講師：深川東京モダン館副館長・東洋大学非常勤講師 龍澤潤先生
参加費：500円(1回毎)

E. クリスマス・サンタクロース映画会

実施日：12月17日(土)
参加者数：子ども29名+大人31名=合計60名
対象：幼児～小学生(小学校3年生までは保護者同伴)
参加費：無料(入館料別)

F. 博物館学芸員実務実習の受入

実施日：8月2日(火)～6日(土)/9日(火)～14日(日)の10日間
受入人数：青山学院大学2名・東京農業大学1名・東洋英和女学院大学1名・日本大学1名・明治学院大学1名

G. 高輪伝馬の会

高輪伝馬の会は、平成15年(2003)11月に発足した自主的な古文書勉強会。平成28年度も引き続き毎月第1・3土曜日に当館を会場として開催(8月を除く)した。

2. 企画展

A. ミニ企画展「高輪牛町・牛がモノを運んでいたころ」

会期：10月26日(水)～1月31日(金)(63日間)
会場：物流博物館2階特別会議室
会期中入館者数：2,194名
展示概要：江戸時代、牛車を用いて荷物の輸送に従事していた人々が集住していた江戸の高輪・牛町(現在の東京都港区・都営浅草線泉岳寺駅付近)と、戦後も物流現場で活躍した牛車の様子を紹介した。主担当：三田芳美



3. 外部協力

A. 共催事業

(1)講座「内航船ペーパークラフトを作ろう！」

共催団体：日本内航海運組合総連合会
実施日：8月27日(土)
対象：小学校6年生までとその保護者
参加者数：54名(午前29名・午後25名)
会場：物流博物館
講師：オトウカトウ氏(工作ユニット)
参加費：無料(入館料別)



(2)展示「貨車車票の世界」展

共催団体：貨物鉄道博物館
実施日：7月3日(日)～9月4日(日)(毎月第1日曜日開館)
会場：貨物鉄道博物館(三重県いなべ市)
概要：昨年、当館にて開催した企画展示「貨車車票の世界」展の巡回展を貨物鉄道博物館にて行った。

B. 外部イベント協力

(1)アウトリーチ(出前講座)

講座名：港区立豊岡いきいきプラザ「ふろしきバッグ作りと映像で見る物流の今昔」

主催団体：港区立豊岡いきいきプラザ

実施日：7月20日(水)

対象：港区民

参加者数：20名

会場：港区立豊岡いきいきプラザ 1階敬老室

概要：ふろしきバッグ作り体験と昔の物流の映像上映。

担当・講師：三田芳美・玉井幹司

(2)東京学芸大学附属高等学校見学実習プログラムへの協力

実施日：平成29年2月7日(火)

対象：東京学芸大学附属高等学校2学年44名

講師：日本通運株式会社 CSR部佐藤健吾次長・海外管理部佐藤光主任

(3)「ミナコレバスツアー」へ協力

実施日：平成29年2月10日(金)

参加者：港区民24名

主催：港区

概要：港区内の美術館・博物館と区が連携し、年2回行われる文化芸術事業「ミナコレ」にて開催されるバスツアーに協力。全8コース中のBコース「歴史を知る～東京・物流の今昔」というテーマのもと4館を巡るコースにおいて、当館では常設展示を紹介。

C. 各種イベント等への出展・連携など

第10回優良ロジスティクス企業業界研究会2017への出展

実施日：平成29年2月21日(火)

参加者：就職活動中の大学生

主催：ロジスティクス人材フォーラム

(イー・ビジネス・ドットコム(有))

会場：秋葉原UDX2F(アキバスクエア)



4. 資料公開(主なもの)

A. 資料館外貸出

貸出資料：真誠講看板・伝馬朱印状・伝馬定書

貸出先：川崎市市民ミュージアム 企画展「旅する人びと～東海道五十三次から世界へ～」にて展示(会期：10月8日～11月20日)。

5. マスコミ紹介(主なもの)

A. 放映

「東京サイト」7月14日14:00～14:04(テレビ朝日)

「モヤモヤさまぁ～ず2」11月13日18:30～19:54(テレビ東京)

「ASAHI Pop'n' Press!ココ掘れキッズのおしえてMAP」12月1・8・15日5:00～5:30(CSテレ朝チャンネル2)



5月

27日(土)「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」①(要予約)
28日(日)映画会 テーマ:「1964」

6月

10日(土)「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」②(要予約)
24日(土)「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」③(要予約)
25日(日)映画会 テーマ:「巨大移転作業～引越し大作戦」

7月

1日(土)「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」④(要予約)
9日(日)映画会 テーマ:「『美』を運ぶ人びと」

8月

10日(木)美術品梱包講座(要予約)
12日(土)段ボール工作コーナー(予約不要)
19日(土)段ボール工作コーナー(予約不要)
27日(日)映画会 テーマ:「トラックドライバー魂」
下旬 ペーパークラフト講座(要予約)

9月

10日(日)映画会 テーマ:「超重量品輸送の世界」

10月

13日(金)～20日(金)展示替え休館
21日(土)特別展「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界(仮題)」
展開催(～12月10日(日))
28日(土)古文書講座開始(要予約)
11月、12月の土曜日と計4回行います。

12月

11日(月)～15日(金)展示替え休館
16日(土)クリスマス・サンタクロース映画会(要予約)
25日(月)～館内整理休館

映画会を開催します

日程: 5～9月の日曜日(月1回)

当館では、日本通運㈱が過去に企画・製作した映画フィルムを多数所蔵しています。フィルムの所有者である日本通運㈱の協力の下、2008年及び2014年～2016年度にかけて所蔵する映画フィルムのデジタル化を進め、約100本に及ぶフィルム資料のデジタル化を完了しました。デジタル化に際しては、可能な限り原画フィルムを探索し、色彩やフィルムの傷等の修正を行うなど、質の高い復元を心がけました。

このたび、デジタル化作業を記念して、特に資料価値が高い作品を選び、映画上映会を開催します。

毎回テーマを設け、今年度は第一期として5月から9月まで月1回の上映会を行います。

〈5月28日の上映作品〉テーマ:「1964」

「白いレール」(1964年/23分/カラー)

東京オリンピックを契機に計画された東京モノレール敷設工事の記録。

「オリンピックを運ぶ」(1964年/41分/カラー/演出:野田真吉)
東京オリンピックを輸送の視点から描いた作品。

「68の車輪」(1965年/33分/カラー/演出:森田実)

300トン超重量トレーラーによる変圧器輸送のようすを描いた作品。

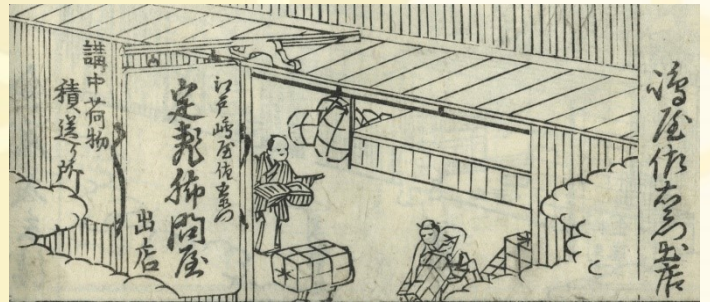
特別展



「飛脚問屋・嶋屋佐右衛門日記の世界(仮題)」展

会期: 10月21日(土)～12月10日(日)

郵政博物館が所蔵している18世紀の江戸の飛脚問屋の日記をもとに、当時の飛脚の仕事のようす、大名家や商家など取引先との付き合いや他の飛脚問屋との関係、商家としての日々の出来事や年中行事、次々に起こるさまざまな事件などを紹介し、あわせて関連資料を展示することで、謎の多い飛脚問屋の実像に迫ります。本展は物流博物館が協力して行ってきた、「駅通志料」を読む会(千葉古文書の会有志グループ)による同日記の翻刻作業の完成を記念して開催するものです。



飛脚問屋・嶋屋佐右衛門伊勢崎出張店の様子



「はこぶ絵本コーナー」できました

昨年3月から、「現代の物流展示室」体験コーナーに「運ぶ」がテーマになっている絵本を集めて配架し「はこぶ絵本コーナー」を設けました。現在は60冊あります。しかけ絵本やトラック・鉄道・飛行機・船の図鑑、コンテナや荷物を運ぶことにつながる物語など、一口に運ぶといっても切り口は様々です。



運ぶ乗り物のおもちゃで遊べます

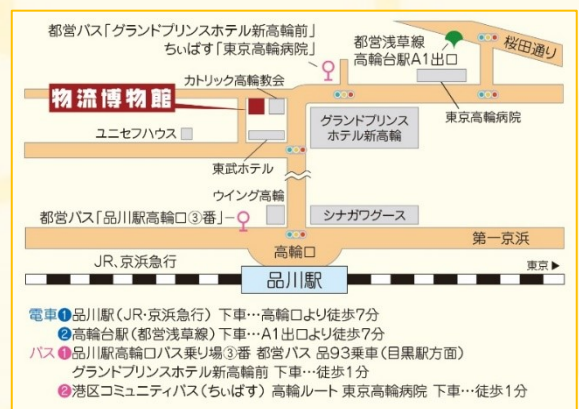
日程: イベントが無い日曜日

時間: 午前10時～12時(最終受付)

日曜日の午前中、貨物列車やトラックのおもちゃであそべます。貨物列車をけん引している機関車「桃太郎」、「金太郎」などに5トンコンテナ列車を連結して、自分でレイアウトした線路を走らせたり、トラックで荷物を運んだりできます。受付で申し込んで頂ければ、無料で貸出いたします。



物流博物館のご案内



【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週月曜日・毎月第4火曜日・祝日の翌日・展示替期間・年末年始

【入館料】高校生以上200円/65歳以上100円/中学生以下無料 *団体20名以上半額

【交通】JR・京浜急行 品川駅 高輪口 徒歩7分
都営浅草線 高輪台駅 A1出口 徒歩7分

